

戦争証跡博物館とその平和教育活動

トラン・スアン・タオ

ホーチミン戦争証跡博物館館長

グエン・トゥイ・ヴァン

ホーチミン戦争証跡博物館研究収集部副部長

はじめに

20世紀、ベトナムでは、国家の独立、統一を求めてフランスおよびアメリカとの激しい戦いが長期間にわたって繰り広げられた。このため、ベトナム国民にとって平和を維持することはきわめて重大な課題となっている。ベトナム国民である私たちは平和の価値についてベトナム人ならではのやり方で関心を寄せ理解することができる。また、博物館を通じた学習は視覚的に現実から学ぶことができる良い方法である。博物館は平和教育において重要な役割を果たしうる。

ホーチミン戦争証跡博物館（以下、戦争証跡博物館、博物館）では、ベトナム人民が闘った侵略戦争に関する証跡の研究、収集、展示、教育、および国民の平和を希求する心を育む活動が行われている。開館以来43年を超える歴史の中で、国内外から1,700万人以上の人々が訪れている。ここでは、文書や写真や実物の展示を通じて戦争の暗い側面が伝えられている。これらの展示物はベトナムの歴史、人々、戦争について物語るものだが、平和と人類愛を希求する心と願いの証しでもある。

1. 戦争証跡博物館の平和教育活動

戦争証跡博物館には様々な人々が訪れるが、その目的は以下のようにまとめることができる。

- アメリカによるベトナム侵略戦争の罪悪と爪痕について学ぶために訪れる。また、ベトナム人民が解放のための対米抗戦を支援した世界の人々について学ぶ。
- 元戦犯、退役軍人、不発弾や枯れ葉剤の被害者などの戦争犠牲者に会い交流する。
- 歴史と平和について学ぶ。
- 観光施設の一つとして体験する、など。
- 戦争証跡博物館は、来館者のニーズや目的に応じた適切な教育活動を実施している。

1) 5～15歳の児童・生徒

小中学生の来館者が最も興味を示すアクティビティの一つが「ジュニア・ガイド」である。定期的に行われているこの課外活動は、子供たちにとって大変役に立つプログラムである。参加者はガイドの体験をするだけでなく、知識を深めるとともに人前で話す技能を磨くこともできる。さらに、ベトナムの歴史に関する自分の記憶に自信を持ち、外国の軍隊と戦い続けてきた祖国に対する誇りをいっそう強く感じるだろう。

「マイ・ミュージアム」というプログラムでは、参加者は博物館の収蔵品の一部を好きなように展示する機会を与えられる。これによって子供たちの創造性を引き出し、論理的思考や団結心を育み、博物館業務に対する理解を深めることになる。さらに子供たちは、学校で学んだ歴史の授業の内容をしっかりと記憶できるようになる。

「おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に博物館に行こう」というプログラムは、家族連れで来館するという企画だ。子供たちは単に戦争証跡博物館を見学するだけでなく、戦時中の生活を体験した祖父母から実際に体験した話を聞くことができる。さらに、参加している他の子供たちやその祖父母との交流も生まれる。このイベントは「ベトナム家族の日」という記念日に毎年実施されており、博物館が親族の絆を深める場となる。三世代の家族が体験談を語ったり聞いたりするだけでなく、歌を歌ったり、家族アルバムを作って思い出を形に残すなどの様々な活動に参加する。それによって家族愛が深まり、ひいては人道主義に基づいた素晴らしい社会の構築につながる。

「グリーン・ペインティング」という絵画コンクールも毎年実施しており、「戦争の爪痕に思うこと」や「国家間の友好と平和への希求」といった様々なテーマを設けてきた。応募作品の中から博物館が選定した作品を館内で展示している。さらに、国際機関と連携して、デンマーク（コペンハーゲン、オーフス）、日本（沖縄、京都、大阪、神戸）、米国（オハイオ）など数多くの国で子供の絵画の展覧会を開催している。子供たちの率直な気持ちとそのシンプルな素描やきれいな色使いで見事に表現されている。戦争は子供たちの目に陰鬱に映っている。反戦のメッセージが単純ではあるがストレートに伝わる。子供たちの平和と友好への願いは純粋で力強いので、距離の隔たり、国境、肌の色や民族の違いなどのあらゆる障壁を越えることができる。絵画コンクールを通じて子供たちは学び成長している。一方で、作品展の運営者側や来館者たちも子供たちの無垢な絵から多くのことを学んでいる。子供たちは戦争を怖がり憎んでいる。なぜなら侵略戦争がもたらすのは、人々の苦しみ、とくに子供たちの苦しみだけだということを知っているからだ。子供たちは平和を愛し、世界中の子供たちの団結と友好を望んでいる。そして、自分の国もよその国も平和がずっと続き、すべての子供が勉強や遊びを楽しむことができることを願っている。

こうした考えに基づいて、「白い鳩」と呼ばれる

児童平和教育室が2010年に戦争証跡博物館内に設置された。このスペースで子供たちは言葉や絵を用いたゲームやお絵かきなどのアクティビティに参加して、世界の様々な文化について学ぶことができる。また、各国の民族衣装を着て写真を撮ることもできる。平和に関するゲームをしたり本を読んだり歌を歌ったりする。年長の子供なら博物館の展示について学ぶことを目的とした体感型ゲームに参加できる。

2) 15～25歳の青少年

ベトナムの青少年は戦後生まれのため親や祖父母の世代の人々が経験した戦時中の喪失や苦しみを直接体験していない。それでも家族の中や地域にいる戦争被害者と接する機会はある。また、学校の歴史、文化、倫理などの授業や、ホーチミン共産青年同盟やその少年組織であるホーチミン・ヤング・パイオニア・オーガニゼーションなどのベトナムの青少年を対象とした組織と連携した活動を通じて、愛国心や平和を愛する心について学んでいる。ベトナムの若者の大半は様々な分野で勉学や労働に励み、戦争によって残された長引く負の遺産から力を合わせて脱却し、ベトナムに平和と統一性と発展をもたらそうと努力している。しかしながら平和維持活動などの社会問題をないがしろにする若者もまだいる。このため、青少年の平和を守る意識を高め戦争証跡博物館に足を運んでもらうために、博物館の展示を紹介した公開書簡を学校や工業団地に積極的に送っている。

さらに移動展を学校、文化センター、工業団地などで実施し、戦争証跡博物館に一度も来館したことのない若者を含め一般の人々に知識を広めている。

このほかにも青少年と戦争体験者との座談会も開催している。若者たちが戦争被害の生き証人の身体の奇形や傷跡を見て、その体験談を聞き、手を握り、抱き合い、お別れのキスをする。そのとき最もむとんちゃくな若者でさえ感極まって涙を流す。本に書かれているどんな事柄よりも、生き証人の言葉そのものが彼らの心に響き深く刻みこまれる。戦争体験者と歌い、踊り、戦時中の様子を聞かせてもらったりする座談会活動と、博物館の展示を巧みに組み合

わせることで良い結果を生み出すことができる。

1968年のテト攻勢で戦った人々と若者の会の一つに「クロッシング・ザ・ファイア（十字砲火）」という会がある。この会合では、障害を乗り越え怪我人の救護や弾薬や食糧の戦場への補給などにあたった兵士、徴集労働者や衛生兵などの戦争の生き証人と話をする機会が若者に与えられる。この会を通じて若い参加者は、ベトナムの強気の戦意、対米抗戦の勝利に対するゆるぎない信念、そして平和と統一への願いなどについて知ることができる。

戦争証跡博物館を訪れ、このような戦争被害者の体験談に耳を傾けるのはベトナム人に限らない。日本、アメリカ、フランス、韓国などの学生も海外から来館している。多くの参加者が、平和を守りベトナムの戦後復興を支援したいという決意を表明している。戦時中の若者の愛国心だけでなくベトナムの平和に対する愛や払った犠牲についても、博物館の展示や座談会を通じてベトナムの若者にきちんと伝わっている。

さらに、多くの旅行代理店の発案により平和学習ツアーの企画運営にも協力している。ツアー参加者は、戦争証跡博物館などの博物館や戦跡を見学し、戦争被害者の体験談に耳を傾ける。戦時中のベトナムの人々の体験や戦争の後遺症との苦闘を知り参加者は感じたことを伝え、ベトナムの復興と発展を支援することになる。

上記に詳述した活動は、戦争証跡博物館が細部にまで気を配り様々なグループを対象とする平和教育プログラムを企画してきた試行錯誤の産物である。博物館は過去の経験から学び、次の活動の内容と形式を調整してきた。その結果、どの平和教育活動も当初の目的を果たしているだけでなく一層多様化し深化したものになっている。

2. 戦争証跡博物館の平和教育活動の効果

戦争証跡博物館はたんなる文化的観光施設ではないと言える。観光客、とくに学生にとっては、重要で有意義な‘平和の学校’である。博物館で実施されている様々なアクティビティは来館者の心をとらえており、博物館で学んだことが来館者にとって良

い結果をもたらしている。この博物館は、アメリカや、オーストラリア、韓国などベトナム戦争に参加したアメリカの同盟国から訪れた退役軍人と、ベトナムの退役軍人との間をつなぐ架け橋となっている。戦争中は敵同士であった彼らが今や友人として語り、握手をし、抱き合い、歌を歌うのだ。

戦争証跡博物館を見学しアクティビティに参加することで、来館者は深い感動を覚え人生にとって貴重な教訓を学ぶ。このことは来館者が書き記した感想にはっきりと表れている。

私たちは祖母の体験談や学校の授業で聴いて戦争について知っています。でも、過去に起こった悲惨な出来事についてこんなにも強く心を打たれたのはおそらく今日が初めてです。戦争は終わり、私たちは今、独立した平和な国で生きています。でも、まだその痛みを苦しんでいる多くの人たちがいます。そして、独立国となったベトナムで生まれ育った私たちは、実際に何が起こったのか、戦争被害者は何に苦しんでいるのか、といった事柄について今まで正しく理解していませんでした。ベトナムの独立と自由のために青春を犠牲にし、その命さえ犠牲にした先の世代の人々に対して、今日、私たち若い世代から感謝と尊敬の念を込めて心からお礼を言いたいです。

(ホアイ・ヌウンとヴァー・トゥー・ホアン、
2016年9月2日)

私たちの国は戦争による破壊の爪痕という重荷を背負っている。ベトナムの平和と解放をめぐる戦争で多くの人々が倒れ、その血が大地に染み込んでいる。枯れ葉剤の後遺症に苦しんでいる人々の展示には心を激しく揺さぶられた。私たち皆が注目し関心を寄せるべき問題だ。

(コック・バオ、ホーチミン共産青年同盟
同盟員、2014年5月23日)

憎しみよりはむしろ愛国心について学びました。この国と国民が体験したことは教訓であり、そ

の記憶は心の中に大切にしまわれています。触れることも消すこともできない記憶で、言葉では言い表せない気持ちにさせるものです。

(グエン・ティ・トゥエット・カー、
2014年5月27日)

この博物館と館内のすべての展示は、過去に関するものだけでなく、未来そして現在も表していることを認識することが重要だと思う。全人類に対するこの恐ろしい犯罪を改め回避するのは私たちの責任であり、それを可能にするのは私たちの理解であり人間愛なのだ。

(アレックスドレ、2016年8月14日)

戦争は人類最大の悲劇である。不当な戦争の犠牲者は罪のない人々だ。過去の教訓から学ぼう。これはたんなる過去の出来事の一部ではなく決して繰り返してはならないということを再確認しよう。

(ロウ・メヘ・ラー (インド在住)、
2013年12月7日)

このような残酷な戦争の悲劇的影響について学ぶ機会を若い世代および海外からの来館者に与えてくれてありがとうございます。私たちがみな過去から学んで、よりよい社会にするために踏み出すことができますように。

(シャロン・W (オーストラリア、
メルボルン在住) 2012年12月)

戦争は人間性を破壊した！私たちは東南アジア青年の船の既参加者 (SSEAYP family) で、反戦を祈り訴えています。友情と平和がアジアと世界にもたらされるよう力を合わせましょう。

(SSEAYP (ラオス)、2005年9月25日)

ベトナムの人々も外国人もそれぞれの考えと関心に基づいて、ベトナム戦争の被害者全般、とくに戦争証跡博物館の活動に対して多くの実践的支援を提供している。退役軍人のなかには罪を償い謝罪し、

ベトナム戦争の後遺症に対する取り組みに貢献したいという意欲を示している人たちもいる。

戦争証跡博物館には、ベトナム戦争とその影響、および世界各地で起こった反戦運動に関する多くの文書や写真が、アメリカ、日本、オーストラリア、イギリスなど海外の退役軍人、平和団体、写真家、ジャーナリストなどから数多く寄贈されている。その貴重なコレクションの中には、イギリスの報道カメラマンとそのドイツ人同僚であったホルスト・ファースによる『レクイエム』、日本人の報道写真家、石川文洋の作品、『ウォー・アンド・ピース：50 イヤーズ・オブ・ベトナム (戦争と平和：ベトナムの50年)』、同じく日本の中村悟郎による『エージェント・オレンジ・イン・ザ・ベトナム・ウォー (ベトナム戦争における枯れ葉剤)』、イギリスのフィリップ・ジョーンズ・グリフィスの『エージェント・オレンジ：‘コラテラル・ダメージ’イン・ベトナム (枯れ葉剤：ベトナムにおける民間人被害)』、ベトナムのチュウ・チャー・タンによる『メモリーズ・オブ・ウォー (戦争の記録)』、二人の日本人写真家・西村洋一と村山康文による『ザ・ペイン・オブ・ザ・ベトナム・ウォー (ベトナム戦争の苦しみ)』などがある。

戦争証跡博物館は、平和教育と研究の知識を学び実践している世界各地の大学や平和関連博物館と連携して数多くの活動をしている。また、アジア開発基金、ベトナム社会科学院、タイ平和開発学国際研究所などが実施する国際平和会議や平和と紛争解決に関する研修プログラムに参加している。さらに、各国の平和関連博物館から平和教育と研究のための理論と実践について最新の情報を得るべく努力している。

戦争証跡博物館は、2012年から2014年まで3年連続で、観光ウェブサイト、トリップアドバイザーで人気博物館第1位に選ばれている。最近では2018年9月8日に、この大規模な観光ウェブサイトで世界の人気博物館のトップ10に入っている。このような人気の高さは、博物館の努力とベトナムの戦争平和問題に対する一般の人々の関心の高さを反映するものだ。この博物館は人々が歴史を学びに

来る学校となっており、素晴らしい平和教育の場となっている。ベトナム戦争は様々な角度から検証・分析されているが、どの角度からであろうと示されるのはただ一つの思いである。それは、すべてのベトナム国民の平和を願う心だ。

一般の人々が戦争証跡博物館の活動に果たす役割についての認識を一層広めるために、そしてこの博物館を公共の学びの場とするために、博物館では一般の人々のニーズを把握し、各対象グループに適した教育プログラムの立案に努めている。その結果、博物館の使命である平和教育の効果がさらに高くなる。それによって戦争証跡博物館の平和と友好と発展の場としての位置づけが確固たるものになる。

The War Remnants Museum and Its Peace Education Activities

Tran Xuan Thao

Director, The War Remnants Museum

Nguyen Tuy Van

Deputy Head, Department of Research and Collections, The War Remnants Museum

The Vietnam of the twentieth century took up the long-term and heroic struggle against France and America for national liberation. Hence, peace-keeping is considered a particularly vital task for Vietnamese people. We can show our interest and understand the value of peace in our own ways. Learning via museums is also a good way to learn from the reality with visuals. Museums can play an important role in peace education.

The Museum specializes in researching, collecting, displaying and educating people through remnants of the wars of aggression in Vietnam, as well as the aspiration for peace of its people. It has received over 17 million visitors, overseas and domestically, for more than 43 years of development. The dark side of war is partly reflected through documents, photos and items at the Museum. The exhibits are not only illustrations of Vietnamese history, people and warfare, but also an evidence for aspiration and hope for peace and humanity.

1. Peace education activities at the War Remnants Museum

Visitors who come to the War Remnants Museum are varied. However, their demands can

be characterized as follows:

- Visiting and studying the crimes and consequences of the American aggression in the Vietnam, as well as the support of people in the world for Vietnamese struggle against America for liberation.
- Meeting and sharing with war victims such as former prisoners of war, veterans, UXO and Agent Orange victims and so on.
- Studying history and peace.
- Gaining experience at a place of entertainment and so on.
- Depending on their diverse needs and purposes, the Museum provides them with appropriate educational activities.

1.1 Children aged 5-15

“Junior guides” is among the activities that interest young visitors at elementary and secondary schools the most. This extracurricular activity is regularly organized and useful for them. As junior guides, they can not only play but broaden their knowledge and better their public speaking skills as well. Additionally, they can remember Vietnamese history with confidence, and take greater pride in their nation’s traditions of fighting against foreign forces.

“My Museum” programme offers them opportunities to exhibit part of the Museum’s items in their own way. This activity helps stimulate their creativity, logical thinking, team spirit and understand professional activities in museums, as well as memorizing the historical lessons that they learn at school.

“Grandparents and grandchildren together go to the Museum” brings families to the Museum. In this trip, children can visit the Museum, and more than just a tour, they learn true stories told by their grandparents who experienced wartime life, and meet with other children and their grandparents. This event is held annually in celebration of the Vietnamese Family Day, a way to connect members of extended families. Not just telling and listening to stories, three generations of the participating families join in different activities such as singing, and recording their memories by making “family albums,” which help enhance their family love and build up a beautiful and humanitarian society.

The “GreenPainting” contest has been held every year with various themes, including “Emotions for the war consequences, and aspiration for peace and friendship among nations.” The Museum has chosen among their works and displayed them in its exhibitions. Furthermore, the Museum has worked with international organizations to hold exhibitions of children’s works in many countries, such as Denmark (Copenhagen, Aarhus), Japan (Okinawa, Kyoto, Osaka, Kobe) the United States (Ohio) and so on. Their sincerity is ingenuously reflected by their simple sketches and beautiful colors. The war is gloomy in children’s eyes. Their antiwar message is simple but straightforward. Their dreams of peace and friendship are pure but strong enough to overcome all barriers of distances, borders, skin colors, ethnic groups, etc. The children have learned and grown up from the

contest. On the other hand, organizers and visitors also learn a lot from their innocent pictures. Children are scared of and hate wars, because they understand that wars of aggression only result in sufferings of humans, especially children. They love peace, unity and friendship between children worldwide; and wish a real long-lasting peace for their country and others so that all children can learn and play.

From this idea, since 2010, the Museum has had a space for peace education for children called “Dove.” There they can join in many activities like word and picture games, drawing, etc. They can learn about different cultures in the world, and wear national costumes of many countries and pose for photos. They can play games, read books and sing songs about peace. Older children can participate in hand-on activities to learn about the Museum’s displays.

1.2 Adolescents aged 15-25

Vietnamese adolescents were born after the war with no first-hand experience of losses and sufferings of past generations during wartime. But they nevertheless have opportunities to meet war victims in their families as well as their community. In their subjects at school such as history, cultural studies, ethics, etc., or activities with associations for Vietnamese youth like the Ho Chi Minh Young Pioneer Organization, Ho Chi Minh Communist Youth Union, they learn about patriotism and the love for peace. Most of Vietnamese young people are making every effort in their study and work in different fields to collaboratively take their country out of the enduring legacies bequeathed by the war years, and build up a Vietnam with peace, integrity and development. However, there are still those who somewhat neglect social issues, including peace-keeping mission. Hence, to raise their awareness of keeping peace, and attract

them to the Museum, we often actively send open letters introducing our exhibitions to schools and industrial zones to invite them to the Museum.

In addition, our travelling exhibitions go to schools, cultural centres and industrial zones to extend public knowledge, including young people who have never come to the Museum.

Our Museum's public activities also include meetings between young people and war victims. Even the most indifferent adolescents were also moved to tears when seeing malformations and wounds of the war witnesses, listening to their stories, holding their hands, hugging and giving them goodbye kisses. Words from the witnesses themselves were wholeheartedly embraced and imprinted on their minds much better than what they can find in books. The clever combination between museum displays and meetings with war witnesses with singing, dancing, introducing wartime sketches and so on produces positive results.

The meeting entitled "Crossing the fire" is one of the meetings between young people and those who once fought during the 1968 Tet Offensive. This gave the youth a chance to talk with the witnesses, and act as soldiers, conscripted labourers, and medics who overcame obstacles to help the wounded, carry ammunition and food supplies to the battlefield. This helps young people learn about their nation's optimistic fighting spirit, firm beliefs in the victory of struggle against America, and aspiration for peace and unification.

Not only the Vietnamese but also students from Japan, the United States, France, South Korea and the like have visited the Museum and met and listened to the true stories of war victims. Many show their determination to keep peace and help Vietnamese people in their post-war recovery. For Vietnamese youth, the exhibitions and meetings properly educate them not only about patriotism,

but love and sacrifice of young people in wartime for a peaceful Vietnam.

Additionally, at the suggestion of many travel agencies, our Museum has worked with them in organizing peace tour in which tourists visit the Museum and other museums and relics, and have chances to meet war witnesses and express their feelings for Vietnamese people during wartime and their postwar work to cope with the aftermath of war, and then help the Vietnamese in building and developing their country.

The above-mentioned activities reflect the Museum's careful experiments in designing peace education programs for different groups. The Museum has learned from its previous experience, and adjusted activities in terms of contents and forms for the next time. By this, each of its peace education activity not only reaches its original aims, but becomes more diverse and profound as well.

2. Effectiveness of peace education activities at the Museum:

It can be said that the War Remnants Museum is more than than a tourists' cultural attraction; it is a very important and meaningful "school of peace" for them, especially students. Its activities have indeed won visitors' hearts, and learning from the Museum has produced positive outcomes for them. It serves as a bridge between Vietnamese veterans and their counterparts who come from the United States and its allies that got involved in the Vietnam War like Australia, South Korea. They were once enemies, but today they talk, shake hands, hug, and sing with one another as friends.

Visiting the Museum and engaging in its activities make the visitors deeply touched and

teach them valuable lessons in their life. This is clearly reflected in their comments when visiting the Museum:

We know the war through our grandmother's stories and teachers' lectures. But today it is probably the first time we have felt more strongly about what happened in the past. The war is over, and now we are living in an independent and peaceful country. But... many people are struggling with their pain out there. And we ourselves, who were born and grew up in an independent country, perhaps have never ever understood properly what happened and what people have to suffer. Today, with all gratitude and respect of the younger generation, we would like to express our deep sense of gratitude to the past generations - who sacrificed their youth, and even their lives for the INDEPENDENCE, and FREEDOM of their people.

(Hoai Nhung and Vu Thu Hoang, September 2, 2016)

Our country bears the burden of devastation on its shoulders. Many people fell, and their blood was absorbed into the ground in their nation's struggle for peace and liberation. We are really moved by those who suffer from the affects of Agent Orange. They deserve attention and care from all of us.

(Quoc Bao, member of the Ho Chi Minh Communist Youth Union, May 23, 2014)

I learned about patriotism rather than hatred. What this land and its people experienced are lessons, and memories cherished in our mind. They cannot be touched, got rid of, and they leave us with a feeling that cannot be described in words....

(Nguyen Thi Tuyet Kha, May 27, 2014)

It is important to be aware that this museum and all the exhibitions in here are not only

about the past, but they represent the future and also the present. It's our responsibility, our understanding and humanity that can change and avoid this horrible crime against people all over the world.

(Alessandre, August 14, 2016)

War is the greatest tragedy of mankind. Victims of an unjust war are innocent. Let's learn from the past, and make sure that this is just part of the past and should not repeat.

(Raw Mehe Lah from India, December 7, 2013)

Thank you for giving the new generation and those from other countries the opportunity to see the tragic effect of such a brutal war - May we all learn and move on to make a better society.

(Sharon W. from Melbourne, Australia, December 2012)

Wars destroyed humanity! We are SSEAYP family, we pray and protest against the war. Hand-in-hand let's make friendship and peace in Asia and in the world.

(SSEAYP (Laos), September 25, 2005)

The Vietnamese themselves and foreigners, with their thoughts and concerns, have provided much practical support to Vietnamese war victims in general and the Museum's activities in particular. Several veterans have performed their penance and made apologies, and showed their willingness to contribute to attempts to cope with the aftermath of the Vietnam War.

Many documents and photos of the Vietnam War and its consequences, and of the antiwar movements of people in the world have been donated to the Museum by veterans, peace organizations, photographers and journalists from countries like the United States, Japan, Australia, and the United Kingdom, with many valuable collections, including "Requiem" compiled by

English photojournalist and his German colleague Horst Faas, “War and Peace: 50 Years of Vietnam” by Japan’s Bunyo Ishikawa, “Agent Orange in the Vietnam War” by Japan’s Goro Nakamura, “Agent Orange: ‘Collateral Damage’ in Vietnam” by the UK’s Philip Jones Griffiths, “Memories of War” by Vietnam’s Chu Chi Thanh, “The Pain of the Vietnam War” by Japan’s Nishimura Yoichi and Murayama Yasufumi, etc.

The Museum has had many opportunities to work with universities and museums for peace in the world which have been studying and putting knowledge of peace education and peace studies into practice; and attend international peace conferences and training courses on peace and conflict resolution of the Asian Development Fund, Vietnam Academy of Social Sciences and Thailand’s International Institute of Peace and Development Studies. The Museum has tried to keep itself updated with new information in terms of theory and practice from museums for peace around the globe.

In the three consecutive years of 2012, 2013 and 2014, it was listed among TripAdvisor’s best museums, and recently on September 8, 2018, it was named by among the top 10 international museums by this large travel website. Such an achievement reflects the Museum’s endeavors, as well as the public interest in war and peace issues in Vietnam. The Museum has become a school where people come to learn history and a quite special venue for peace education. Thus, the Vietnam War is seen and analyzed from different perspectives. However, whatever perspectives they are, they show one unique idea: the aspiration for peace of all Vietnamese people.

To further promote the public’s role in the Museum’s operations, and to make it a public learning environment, the Museum has been trying to explore the public’s demands and

design suitable educational programs for each target group so as to enhance the effectiveness of its peace education mission in the future. This mission contributes to making up the Museum’s character as a venue for peace, friendship and development.